

# こども達に必要な 子育て環境を考える

チャイルドラインこおりやま  
事務局長 小笠原 隼人



# チャイルドラインとは



## 【概要】

- 18歳までの子どもがかける子ども専用電話。
- 発祥は1970年代の北ヨーロッパ。現在は世界40カ国以上で展開。
- 日本では1998年からスタート。46都道府県。78拠点で展開。

## 【4つの約束】

- ヒミツはまもるよ
- 名まえは言わなくてもいい
- どんなことでも、いっしょに考える
- 切りたいときには、切っていい

# 年間データ



- 発信数: 799, 713件 (1日あたり2, 185件)
- かけた人数: 298, 723人 (1日あたり816人)
- 着信数: 209, 126件 (1日あたり571件)
- 総通話時間: 19, 611. 9時間 (1日あたり53. 6時間)
- 総着信数: 199, 113件 (うち会話が成立したもの: 70, 487件)
- 平均通話時間: 6分06秒 (うち会話が成立したもの: 15分30秒)
- かけ手の年齢・性別 (会話が成立したもの)

男子小学生5. 2%、女子小学生10. 3%、男子中学生8. 8%、女子中学生7. 3%、男子高校生23. 0%、女子高校生11. 3%、男子不明19. 5%、女子不明7. 5%、未就学・性別不明6. 9%

# チャイルドラインこおりやまの現状



- 2010年春に準備会を発足。2012年9月にサービススタート
- 現在、県内にある唯一のチャイルドライン
- 2011年と2012年の8月、県内全ての小・中・高校に
- チャイルドラインのカードを配布(約250,000枚)
- 受け手は現在約20名
- 毎週水曜日の16時～21時に相談ラインを開通

# 今年度は相談数が激増

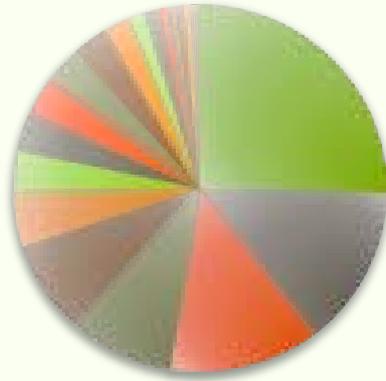


- 2011年4月～2012年3月の電話総数は4,805件
- 2012年8月27日から9月23日までの電話総数は5,058件  
(1ヶ月弱で2011年度の年間着信数を超えるこどもの訴え)



震災から1年半が経った今、多くのこどもたちが、  
話を聴いてくれる相手を求めている。

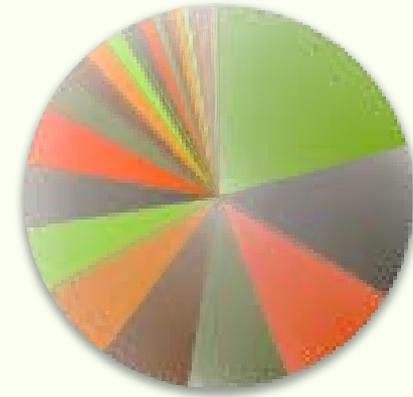
# 相談種別



【福島】

- 人間関係
- 該当しない
- 恋愛
- 性行動
- ころに関すること
- 趣味・部活・習い事
- 性格・容姿
- 妊娠・性感染症
- 生き方
- ネットトラブル
- 性の多様性

- 雑談
- いじめ
- 学びに関すること
- 性への興味・関心
- 身体に関すること
- 進路・将来
- 暴力
- 自殺に関すること
- 不登校
- ひきこもり
- 体罰



【全国】

- 人間関係
- 該当しない
- 性への興味・関心
- 身体に関すること
- 恋愛
- 生き方
- 趣味・部活・習い事
- 性の多様性
- 不登校
- ひきこもり
- 犯罪
- ネットトラブル
- 体罰

- 雑談
- いじめ
- 性行動
- ころに関すること
- 学びに関すること
- 進路・将来
- 虐待
- 性格・容姿
- 暴力
- 自殺に関すること
- 妊娠・性感染症
- 自傷
- 薬物乱用・依存

全体的な傾向は、全国平均と比較して大きな相違はない

# 相談件数が増えている原因の仮説



## 1. 震災・放射能の影響によるストレス

(住環境の変化、外遊びの制限、家族の不和などのストレス?)

## 2. 身近な人に話を聞いてもらいにくい

(大人が余裕を無くしている?)

# 今後の課題



## 1. 受け手体制の強化

⇒ 相談員数と相談ライン数を増やす

## 2. 資金面の基盤創り

⇒ 個人・団体のスポンサー探し

## 3. 個別ニーズのデータ化

⇒ 個々の声から分かるニーズを外部と共有

## 4. 諸団体との連携

⇒ 必要なこどもに必要なサービスを届けられる体制の構築

# 連携のイメージ



## 1. 課題とリソースの情報共有

⇒地域別、種類別に課題とリソースを整理する

## 2. 相互リファー(紹介)体制の整備

⇒団体間で強みの相互補完ができる体制を創る

## 3. 不足しているリソースの充填

⇒行政へのロビーイングや協力者の確保をする

## 4. 大人が心に余裕を持てる社会に

⇒それぞれの持ち場でそれぞれができることを